

自己評価				評価(総合)	学校関係者評価		
学校運営計画(4月)	(教育目標)	(運営方針)	評価(総合)	自己評価は			
<p>【成果】ICT活用の職員研修を重ねたことで授業改善を図ることができ、生徒の学習意欲の向上につながった。また、生徒の判断を取り入れた制服の着こなしや、生徒会を中心とした学校行事の企画・運営、地域と連携した活動やコースの専門性を生かした活動等、コロナ禍の制限があったものの、生徒が主体的に取り組む場を創出したことは生徒の成長につながった。さらに、計画的・継続的な中学校訪問や、ホームページ、SNS等を通じたスピード感のある発信により、広報活動を充実させることができた。</p> <p>【課題】創立百周年を迎える本年度、記念式典等の行事を成功させることともに、より一層魅力ある学校づくりに取り組んでいく。そのため、全職員が同一目標に向かって、個々の生徒に応じた教育を効果的に提供し、生徒自身が考え、意見を発信する場を創出することで、本校の課題である生徒募集に繋げたい。</p>					<p>A : 適切である</p> <p>B : 概ね適切である</p> <p>C : やや不適切である</p> <p>D : 不適切である</p>		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題			
特色ある学校づくり	地域に根ざした発信力ある学校づくりの推進	地域で行われる行事に参加し、地域社会に貢献するとともに、魅力ある地域を作るための提案や、魅力の発信の仕方などについて、高校生ならではの視点で発信できる協力的な学習活動の場を積極的に作っていく。また、地域に根ざす学校の在り方を模索するとともに情報発信の強化に努める。					
	「スポーツの三瀬」を中心とした魅力ある学校づくりと活性化の推進	3年間を見通した教育活動(ロードマップ)を推進し、大学や地元企業との連携をおしかりキャリアの工夫をおしかり、地域社会に貢献する人材育成を目指す。 スポーツ教育等、地域との交流を深めることとおしかり、する・観る・支える・知る・極める生徒の育成を図り、「スポーツの三瀬」の充実・発展を推進する。 共生社会を視野に入れた実習等魅力あるカリキュラムの工夫と実践をおしかり、生徒の学力向上と進路実現を図る。					
教務部	ICT等の新しい指導法の研究や新たな成績処理システムの効果的活用	無償LANを利用しICT機器を使って積極的に知識の習得と協力的な学びを充実させ実践的な態度を身につけさせる。 主体的・対話的で深い学びになるよう、授業の中で考え、疑問に思うことを他者と共有することにより、積極的なコミュニケーションをとりながら自らの知識を更に高める授業の実践を図る。					
	観点別評価の基盤作成と教務内規の改定	観点別評価を実施する上での各教科・科目の基盤を明確化し、毎回授業で生徒に示す。 授業アンケートを行い、観点別評価に基づく授業改善に努める。 新学習指導要領に向けた教務内規の改定 新学習指導要領の年度更新にともない教務内規の見直しと改訂を行う。					
PTA活動 同窓会活動 後援会活動	PTA活動の活性化	魅力あるPTA活動内容を計画し、より多くの参加者を募る。また、活性化を図り、関係性を保てるからでも広めてもらう関係作りを目指す。 広報委員との連携を深め、PTA活動や学校の教育活動が見えるPTA新聞の作成を目指す。学校行事に多くの参加を促す契機とする。					
	同窓会・後援会との連携強化	同窓会各支部および後援会との連携を強め、校内外での活動を効果的に紹介できるよう工夫し、支援をいただける環境を作る。					
記録の収集と整理	創立百周年記念事業の成功に資する環境整備	創立百周年記念事業を成功させるための周到な準備を行う。					
	三瀬高校の魅力と特徴が伝わるような広報活動の展開	スポーツ文化コース、普通科一般教養コースの魅力と特徴が伝わる学校案内を作成する。中学生や保護者向けの学校説明会の内容を充実させる。					
広報活動の活性化	学校ホームページやSNSによる発信の充実	ホームページ、Twitter、Instagramを活用し、様々な方法で学校情報の配信を行う。 本校の教育活動が具体的に伝わる三瀬ニュースを、定期的に作成する。部活動の活躍などの不定期な内容をできる限り早く発信する。					
	中学校との信頼関係の構築	中学校担当者による各学期に1回程度の訪問を実施し、学校全体・職員一丸となって広報活動を展開する。 訪問先の中学校出身生徒の情報を具体的に伝え、本校の指導を中学校に理解してもらう。 進路相談事業や中学生体験入学で本校生徒の活躍の場と中学生とのふれあいの場を設けるなど、学校の魅力が伝わるよう工夫を行う。 本校主催の学校行事で参加が可能な行事の広報活動を行う。					
生徒部	生徒の人間力の育成	生徒会・各種委員会生徒のチームワークを深め、生徒自身が主体的に活動でき魅力ある学校行事を目指す。 「不易流行(伝統と革新)」を基盤とした、生徒会活動の活性化と学校行事の創出 「地域の中の学校」として、地域行事(城島まつり、エトツ祭等)に積極的に参加し地域貢献を果たすとともに、その経験を通して人間力の向上を目指す。 矯正に制限を敷かず、落ち着いた身なりを自ら整えることのできる力の醸成 生徒自身が5分前行動の習慣化とワンストップ挨拶を励行するなど自己責任感を養い、相手を思いやる気持ちを育成する。					
	安心、安全な環境づくり	時間厳守と挨拶の励行による風通しの良い人間関係作り いじめや問題行動の未然防止・早期発見及び的確な早期対応と組織的な対応の実施 交通安全教室、二輪車実技講習を開催することで、生徒の交通安全に対する意識と態度の向上を図る。					
交通マナー・モラルの向上	交通ルールを遵守する態度の向上と交通モラル、マナーの意識の高揚	PTA生活委員会と連携し、登下校指導や校外指導を推進する。通学マナー、危険箇所の情報を共有し、生徒の交通事故防止に努める。					
	部活動の支援	集団としての基礎をしっかりと作り、計画的で効率的な練習を行い、部活動として規範となる活動を指す。 各部活動生徒が安心、安全に日々の練習が行える環境作りをしていくための支援体制作りを推進する。 生徒の人間力を高めるための活動が目的であるため、協調性や相手を思いやる態度の育成に努める。					
保健管理 安全管理	生徒保健委員会の充実と活性化	「保健だより」を定期的に発行し、配布の際には保健委員会から連絡を行う。 生徒の健康面や安全面に関する関心や意識を高めるため、「保健だより」の内容について創意工夫する。 校外研修に積極的に参加し、その内容を保健委員会の活動に活かす。					
	安全点検の実施と適切な対応	学期ごとに安全点検を実施し、問題点を速やかに改善できるよう対応する。					
教育相談	課題を抱える生徒への早期対応	教育相談委員会を開催(毎月1回)、課題を抱える生徒を把握し早期対応にあたる。 課題を抱える生徒や保護者を、専門医療機関、専門職(医療カウンセラーやSC)に適切につなぐ。					
	特別支援教育の充実	支援が必要な生徒を把握し、個別の支援計画・指導計画の作成と教育相談を行う。 職員研修を通じて職員が多様な生徒に対応する力を高めるとともに、学年会、授業担当者会等で支援が必要な生徒の情報を提供することで、全職員が共通認識を持って適切な指導が行えるようとする。					
環境美化	生徒美化委員会の充実と活性化	美化強化週間の実施を通して、清掃への生徒の意欲を高める。 美化委員会が清掃時間に放送で呼びかけ、全校生徒に毎日15分間、心を込めた清掃を行う習慣を定着させる。					
	キャリア教育	自己管理手帳とClassiを活用し、各分業・学年と連携して、生徒が自ら学ぶ姿勢を伸ばす。 探究活動と進路ガイダンスを通して生徒のキャリアプランニングの基礎を構築する。 生徒・職員向けの進路情報の提供を充実させ、キャリアプランニングに対する意識を高める。					
進路指導	模擬試験等の事前事後指導の徹底と希望進路の実現に向けた取組の充実	模擬試験等に向けたPDCAサイクルを確立させ、学習内容の定着化を図るとともに、G7に応じたきめ細やかな指導を行う。 就職希望者向けの対策講座の充実を図るとともに、対策勉強会を実施し希望の進路実現に向けて主体的に取り組ませる。 公務員希望者に向けた課外授業、保護者説明会、事前指導等の内容を深化し、進路実現の支援を充実させる。					
	探究活動	3年間を見通した「MJCプロジェクト」実施計画を確立し、職員・生徒の共通理解を図りながら課題対応能力の伸長につなげる。 各学年ごとに探究成果を共有する機会を設定し、PDCAサイクルを確立する。 探究内容と希望進路がつながる活動を取り入れることにより、主体的に進路実現に取り組む意欲を高める。					
職員研修	教師の資質向上を図る研修の推進	本校の課題をふまえた効果的な研修を計画実施する。また、研究授業や相互視察等機会を活用して、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を推進し、教科指導力の向上を図る。					
	人権教育	本校の人権教育全体計画に沿い、学校教育の全領域における人権・同和教育の取組を推進する。					
一般教養コース	生徒の学力伸長	模擬結果等から生徒の学力を把握し、教科と連携しながら学力の伸長を図る。また生徒の進路目標を踏まえ、受験方法や進路先を指導する。 進路生に活動実績として報告できる活動について、従来のものと併せて開拓・整理すると共に、生徒の積極的な取り組みを支援する体制を整備する。					
	進学対策	総合的な探究の時間での探究活動の実施 総合的な探究の時間での探究活動の実施を通して、探究活動を実施し、進学等に必要となる力を身につけさせる。 各教科と連携して一般教養を生徒に身につけさせるとともに、模試等を活用し、進路指導の充実を図る。					
就職対策	公務員試験対策の充実	進路部や学年と連携して、就職を希望する生徒に必要な学力を身につけさせるとともに、面接練習を計画的に行う。					
	社会人としてあるべき基本的マナーの定着	学年・クラス担任等と連携して、日常的に言葉遣いや期約の厳守など、社会人としてあるべきマナーの定着に向けて、将来を意識した指導の実施を図る。					
基礎学力向上	学びへ向かう姿勢の涵養と基礎学力の定着	生徒が社会で生き抜くための学力の重要性を学ばせるとともに、具体的な進路目標を持たせ、学習結果を数値などに可視化して学ぶ姿勢を養う。Classiなどの学習教材を活用して生徒の家庭学習の内容を把握するとともに、見て学ぶ内容を生徒に示して学習が継続できるようにする。					
	競技力向上	重点6競技の実績向上と「スポーツの三瀬」の内外へのアピール 全国大会30名・九州大会50名以上の出場を果たすとともに、チーム競技の実績向上を図る。 体育科職員、クラス担任と連携を図るとともに、スポーツ科学トレーニング、スポーツ文化講座等授業での仕掛けを作る。また、スポーツ文化コース集金を計画的に行う。 練習時間を確保するとともに指導者のレベルアップを図る。また、練習施設を適切に管理する。					
授業の充実	質の高い練習環境の整備	小学校体力測定補助実習、スポーツ教室、体力測定実習、スキー実習を充実させるとともに、魅力ある授業を行い、魅力ある生徒を育成する。					
	生徒確保	より質の高い生徒の確保 中学校やクラブチームとの連携を図る。					
事務関係	事務関係	新学習指導要領の年次進行に合わせ、教務課と連携しながら教材等の計画的購入を進めていく。 学校施設の老朽及び不具合箇所について、優先順位を付し、県施設課と連携しながら計画的に改修を進めていく。 教育のICT化及び学校広報活動に対応するため、継続してICT機器等の整備を進めていく。 学校施設について5月末までに安全点検を実施し、事故等の未然防止に努める。※保健環境課と連携					
	教育環境の整備、充実	事故等の未然防止による、生徒・教職員等の生命・財産の保全 新型コロナウイルス感染症対策や熱中症対策等については、保健衛生用品の迅速かつ計画的な購入を進める。※保健環境課と連携					
円滑な事務処理の推進	事務室からの職員への連絡は、学校ポータルサイト内の連絡掲示板を活用することで、職員への周知遅れを防ぐとともに、職員朝礼における事務連絡の時間短縮を図る。 職員(教員)出張時における出張命令書の記入について、旅費計算ソフト(改訂版)の活用を周知し、職員(教員)及び事務室庶務担当者間の業務効率化につなげる。 電話対応のマニュアル化を行い、丁寧な対応を心掛けるとともに業務の効率化を図る。						
	自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策						

評価項目以外のものに関する意見

自己評価				評価 (総合)	学校関係者評価	
項目	学校運営計画 (4月)	年度重点目標	具体的目標		評価 (総合)	自己評価は
学校運営方針	(教育目標)	本校を踏まえ、本校の課題を常に念頭に置いて、真摯正しい豊かな人間性を持ち、主体的に学ぶ意欲と自らの未来を切り開く志を持った生徒を育成する。また、本年度のコンセプト「ミラクル三瀬2022」への達成は教育活動の中心となる。グローバル化と社会の急激な変化に対応し、遠くを飛ぶ生徒の育成を図る。			A	A
	(運営方針)	教育目標を達成するために、次のような「目指す学校像・生徒像・教員像」に思い、種々な学び・豊かな心・健やかな体をはじめとした、社会を生き抜く力の育成を図るとともに、地域に根ざした存在感のある学校づくりに努める。 (1) 目指す学校像 全職員が同一目標に向かって何事にも全力で取り組む意欲と気風を醸成した学校 イ 生徒と教員が共に学び、能力に応じた教育を効果的に提供する学校 エ 規律正しい学校生活を送り、地域や同窓生から愛され信頼される学校 (2) 目指す生徒像 ア 互いに認め合い、高め合うことができる、豊かな心身に育った生徒 イ スポーツと文化芸術をとおして、知徳体ともにバランスの取れた生徒 ウ 自らの能力を伸ばし、努力することを楽しめる生徒 (3) 目指す教員像 ア 生徒と対峙し、対峙しあう心を持って授業を執る イ 教育活動の向上を目指し、常に自己研鑽に努める教師 ウ 常に率先垂範に努め、生徒の自主性が育まれるような人間味豊かな教師				
【成果】	オンライン授業に対応した新しい形の授業形態、魅力診断テスト等の導入や説明会の実施やこれらを活用した生徒への指導等により、生徒の学習意欲の向上につなげることができた。生徒の判断を取り入れた制服の着こなしや、生徒会を中心とした工夫した学校行事の実施等、コロナ禍での制約はあったが、生徒が主体的にやりこむ活動をつくり、生徒の成長につなげることができた。中学校訪問の充実、学校見学会「スクールビュー」の立ち上げなど、広報活動の充実にも努めた。	1 わかる授業による学力向上	・生徒の実態把握に努め、能力に応じた教育を効果的に提供する。 ・AI・IT教育の効果的な活用により、授業の改善・充実を教員指導力の向上を図る。 ・Classi等を活用したアダプティブ学習の推進	A	A	A
	2 進路実現に向けたキャリア教育の充実	・3年間を見通した教育活動ロードマップを活用し、計画的なキャリア教育の推進 ・生徒一人一人のニーズを共有する場を設け、第一希望の進路実現に向けた個別の整備				
	3 自律心を備えた心豊かな人間の育成	・「時間の厳守」「さわやかな挨拶」「心を込めた清掃」を徹底することにより、規範意識・自尊意識を醸成する。 ・自分で考え行動する力を付けることで、当たり前とされている生活の育成を図る。 ・常に率先垂範に努め、生徒の自主性が育まれるような生徒指導を目指す。				
	4 地域に開かれた学校づくりの推進	・NPOの更新、定期中学校訪問等積極的な広報活動に取り組み、学校全体で生徒募集に努め、地域との交流を活性化させる。 ・地域行事等にボランティアとして参加するとともに、地域参加型の学校行事を企画し、地域に開かれた学校づくりに努める。				
	5 「スポーツの三瀬」の充実・発展	・スポーツ文化コースの特色を活かし部活動の競技力向上及び、学校全体の活性化と充実振興に努める。 ・健康教育と安全教育を推進する。 ・心を育む道徳教育の充実により、人としての使命感、責任感を持つ生徒の育成に努める。 ・SO, SM, PTA等との情報共有を図り、いじめや不登校の防止に努める。				
	6 他者の人間性を認めることによるいじめの撲滅	・心育推進委員会の活用により、いじめや不登校の防止に努める。 ・久留米大学との連携強化を深め、高大接続を積極的に推進する。 ・次年度生徒の協働活動として、コミュニケーション能力の育成に努める。				
	7 高大接続の積極的な推進	・成年年齢の引き下げに伴う状況変化を踏まえつつ、学校におけるキャリア教育を推進する。 ・成年年齢引き下げを契機とした消費者教育の充実にも努める。				
	8 成年年齢の引き下げに伴う教育の充実					
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
特色ある学校づくり	地域に根ざした学校づくりの推進	地域で行われる行事に、地元高校生として参加するとともに、魅力ある地域を作るための提案や、地域の魅力の発信の仕方などについて、高校生ならではの視点と発想でできる学習活動の場を積極的に作っていく。また、地域に根ざす学校の在り方を模索するとともに情報発信の強化に努める。 3年間を見通した教育活動(ロードマップ)を推進し、大学や地元企業との連携をおとしたカリキュラムの工夫をおして、地域社会に貢献する人材育成を目指す。	B B	○今年度は福岡総合支所と連携し備えた生手のつくりボランティアに3年生が参加した。新型コロナウイルス感染症の影響による制限はあったが、徐々に生徒の活動の場も増えつつある。今後も地域の抱える課題の発見と解決に向けた取り組みを地域と協同して進め、行事への参加にとどまらず、地域活性化への提案等、本校生徒の意見を発信する場を作ることで取組の活性化につなげていく。 ○スポーツ文化コースでは、小中学校体力テストサポート実習を2年ぶりに実施することができた。スポーツ文化コースでの専門性の高い学習が活かせ、自分自身で有用性の育成につながるような特色ある教育について、今後活動の場を広げることが、スポーツ文化コースの魅力強化にもつながると考える。	A	・地域の小学生にとって、三瀬高校生があれこれの対象となることを願っている。 ・今後三瀬や様々な地域活動に参加し、地域貢献や三瀬高校の魅力を発信を継続してもらいたい。
	「スポーツの三瀬」を中心とした魅力ある学校づくりと活性化の推進	スポーツ教室等、地域との交流を深めることをおとして、見る・観る・支える・知る・極める生徒の育成を図り、「スポーツの三瀬」の充実・発展を推進する。 本生社会を視野に入れた実習等魅力あるカリキュラムの工夫と実践をおして、生徒の学力向上と進路実現を図る。	A A	○わかろ授業を目指し、Chromebookの導入に伴い、職員研修を複数回実施したことで、先生方のスキルが向上している。その結果、Chromebookを使って授業に積極的に参加する生徒も増加している。 ○Classiを導入し、オンライン授業に対応した新しい形の授業形態が実施可能であるが、生徒に定着していない現状がある。Classiも有効活用して家庭学習を定着させる工夫が必要である。 ○新学習指導要領の導入により、観点別評価を実施する上で各教科・科目毎の標準の明確化を図るとともに、さらに教科会を設立し、進めていきたい。 ○広報活動については、年間6回学校説明会を中心にホームページ・SNS・三瀬NEWSの作成も充実している。今後も工夫を凝らしていきたい。 ○PTA広報委員は、保護者が協力的で委員会の参加率も高い。PTA新聞作成は昨年より早く仕上げる方向で進んでいる。 ○学校行事では体感型PTAを交えて、保護者にも有観客で実施することができた。しかし、コロナの制限は完全に克服できなかった。来年度はもっと工夫して実施し、保護者が一緒に活動できる場面をもっと増やしていきたい。 ○来年度は100周年記念大会が開催される。より一層準備を万全の状態で行ってほしい。	A	・教育のICT化に伴い、職員の技能に依ると到達目標や新しい形の授業形態を委員にも示してもらいたい。 ・創立百周年記念式典が、在校生、卒業生、地域の携わったものとなることを祈念している。 ・新しい授業形式は先生方も模索しながらの取り組みであったと思うが、結果として積極的に参加する生徒が増えたとはいえ、取り組みの成果と生徒がわかる。 ・SNSを通じて三瀬高校の活動を聞いたり、生徒の笑顔の写真や生の声を聞いたり三瀬高校のイメージがわかりやすくなり、今後とも継続して投稿してもらいたい。
【教育研究】	ICT等の新しい指導法の研究と新たな成績処理システムの効果的活用	アクティブ・ラーニングを活用した授業方法の研究	継続LANを利用してICT機器を使って積極的に知識の習得をする実践的な態度を身に付けさせる。 主体的・対話的で深い学びになるよう、授業の中で考え、疑問に思うことを他者と共有することにより、積極的なコミュニケーションをとりながら自らの知識を更に高める授業の実践を図る。	B B	B	A
	観点別評価の基準作成と教科内規の改定	観点別評価を実施する上で各教科・科目毎の標準の明確化を図る。 学習に対する興味・関心を高めるために、観点別評価に基づく授業改善に努める。	C B			A
新学習指導要領に向けた教科内規の改定	新学習指導要領に向けた教科内規の改定	新学習指導要領の年度更新にもない教科内規の見直しと改訂を行う。	A			A
	PTA活動 同窓会活動 後援会活動	PTA活動の活性化を図る。 魅力ある活動内容を計画し、PTA活動へ多くの参加者を募りたい。また、本校の魅力を保護者からも広げようという関係作りを目指す。	A C	B B	B	B
記録の収集と整理	記録の収集と整理	創立百周年行事の準備を行う。	ホームぺージ・SNS・三瀬NEWSをはじめとする広報の仕組み作りと、スピード感を持った取り組みを実施する。 ホームページをより充実させる。同窓会の協力を得て、広報誌の配布や掲示する場を広げ三瀬高校の情報を発信する。	A B	A A	A
	中学校校対策の強化	中学校との情報関係の構築をめざした、中学校訪問を実施する。 訪問先の中学校出身生徒の情報を具体的に伝え、本校のきめ細やかな指導を中学校側に理解してもらおう。 進路相談事業や中学生体験入学で本校生徒の活躍の場と中学生とのふれあいの場を工夫する。 本校の学校行事に中学生を招待し、本校の魅力や中学生が体験する場を作る。	A A A	A A	A	
生徒部	生徒部	確かな制約の着こなしや落ち着いた身なりを自ら整えることができる。 「地域の中学校」として各学期の地域ボランティア活動や地域行事(城高まつり、酒蔵開き等)に積極的に参加し、地域貢献を果たす。 生徒会・各種委員会生徒を主体的に活動させ、魅力ある学校行事(地域中学生が参加する行事含む)を推進する。 生徒自らが5分前行動の習慣化とストップ挨拶を励行することにより、自己責任感を養い、相手思いの気持ちや育成を図る。	B B A B	B B	B	
	安心、安全な環境づくり	いじめや問題行動の未然防止・早期発見に努め、的確な早期対応と組織的な対応を行う。 いじめアンケート、学校生活アンケートを実施し、生徒の状況把握を行うとともに、職員の情報共有を図ることによる早期対応に努める。 交通安全教室、二輪車実技講習を開催することで、生徒の交通安全に対する意識を喚起する。 PTA生活委員会と連携し、登下校指導や校外指導を推進する。通学マナー、危険箇所を共有し、生徒の交通安全に努める。 集団としての基礎をしっかり作り、計画的で効果的な練習を行い、部活動として模範となる活動を推進する。 各活動生徒が安心、安全に日々の練習が行える環境づくりをしていくための支援態勢づくりを推進する。 生徒の人間力を高めるための活動が目的であるため、協働性や相手思いの態度の育成に努める。 「保健だより」を定期的に発行し、配布の際には保健委員会から連絡を行う。 生活実習調査や意識調査などを行い、その結果を入れるなど「保健だより」の内容について創意工夫し、健康面や安全面に係る関心や意識を高める。 校外研修に積極的に参加し、その内容を生徒総会等で発表する。 健康管理について集食等で注意を促し、保健室での休息は1時間という原則を守りよう徹底させる。 保健室利用状況を担任、学年間に報告連絡する。	A A B B A A A A	A A B B	A	
教育相談	教育相談	課題を抱える生徒への早期対応 課題を抱える生徒や保護者を、専門医療機関、専門職(医療カウンセラー等)に適切につなぐ。 特別支援教育の充実 支援が必要な生徒を把握し、個別の支援計画・指導計画の作成と教育相談を行う。 職員研修や他大学・関係機関等での支援が必要な生徒の情報を提供することで、全職員が共通認識を持って適切な指導が行えるようにする。	A A B A	A A	A	
	環境美化	環境美化委員会の充実と活性化 清掃時間に音楽を流す等、毎日15分の清掃を確実に行う習慣を身につける工夫をする。	B B	B	B	
キャリア教育	キャリア教育	自己管理手帳とClassiを活用し、各分科と連携して、生徒が自ら学習する姿勢を伸ばす。 進路ホームページと進路ガイダンスを通して生徒のキャリアプランニングの基礎を構築する。 生徒・職員向けの進路情報の提供を充実させ、キャリアプランニングに対する意識を高める。	B A B	B	B	
	進路指導	模擬試験等への事前事後指導の徹底と希望進路の実現に向けた取組の充実 地域創造クラスと連携しながら、保護者説明会、個別授業等効果的な指導・支援を進める。 3年間を見通した「みらいプラン」実施計画を確立し、職員・生徒の共通理解を図りながら課題対応能力の伸長につなげる。 各学年ごとに探究成果を共有する機会を設け、PDCAサイクルを確立する。 探究内容と希望進路がつながる活動を取り入れることにより、主体的に進路実現に取り組む意欲を高める。 本校の課題をふまえた効果的な研修を計画実施する。また、研究授業や相互授業参観を活用して、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を推進し、教員指導力の向上を図る。 模擬結果等から学力の高い生徒を把握し、教科と連携しながら学力の強化を図る。また生徒の進路目標を踏まえ、受験方法や進路先を提示する。 進路実現に向けて進路指導に努める。 進路先に活動実績として報告できる活動について、従来のものと併せて開講・整理すると共に、生徒へ周知し実施を促す。 各教科と連携して一般教養を生徒に身に付けさせるとともに、副課外・模範を活用し、進路指導の充実を図る。 地域学習を通じた地域との繋がりの強化 大学での受講や大学生との協働活動や協働を通して生徒の知見を広げ、コミュニケーション能力を育成し、総合的な人間力の育成に努める。 学力到達度ゾーン(GTZ)D3層の生徒に対し、朝課外や放課後に対策講座を実施し、担任、各教科と連携して基礎学力の定着を図る。	A B A A A A A A A A	A A A A A A A A	A	
【一般教養コース】	特進クラス	成長した生徒の学力伸長 幅が・西暦・看護系学校の研究 活動実績となる諸活動の研究 公務員・就職対策の充実	A B B B	B	B	
	地域創造クラス	地域学習を通じた地域との繋がりの強化 高大連携事業の推進	B C	B	B	
基礎学力向上	スポーツ文化コース	重6競技の実績向上を図り、「スポーツの三瀬」を県内外にアピールする。 全国大会30名・九州大会60名以上の出場を果たすとともに、チーム競技の実績向上を図る。	B	B	B	
	競技力向上	生徒の主体性を引き出す 練習環境の充実を図る	A A	A A	A	
実習の充実	実習の充実	三瀬高校の価値を高めるため工夫を行う 人間力の向上を図る より質の高い生徒の確保を行う	B B A	B B A	B	
	事務関係	学びを通じた生徒の幸せを念頭に教育活動を迅速な環境で行うことができるよう財政的支援を行う。 学校施設について6月末までに安全点検を実施し、事故等の未然防止に努める。※保健管理課と連携 新型コロナウイルス感染症対策や中熱中対策については、保健衛生用品の迅速かつ計画的な購入を進める。※保健管理課と連携 事務室からの職員への連絡については、学校ホームページ内の連絡掲示板を活用することで、職員への周知徹底を図るとともに、職員負担に配慮する。 職員(教員)出張時における出張命令書の記入について、旅費計算支援ソフト(改訂版)の活用を図り、職員(教員)及び事務室業務担当者業務効率化につなげる。 電話対応についてマニュアルを行うことで、丁寧な対応を確保するとともに個人差をなくし業務効率化を図る。	A A A A A A	A A A A	A	
教育環境の充実、整備	生徒・教員等の安全安心の確保	事故等の未然防止に努めることで、生徒・教員等の生命・財産を守る。 業務改善の視点から、円滑な事務処理に努め、教育活動を支援する。	A A A	A A A	A	
	円滑な事務処理の推進		A	A	A	
自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策						
・生徒数が増えることを踏まえて生徒一人一人に寄り添った指導を行い、第一希望に応じた進路実現を可能にする学校を目指す。 ・生徒主体の学校行事の実施等により生徒の活躍の場を増やし、自分の考えを自信をもって人前で表現できる生徒の育成につなげる。 ・地域資源の活用も含めた地域との連携を推進し、部活動の活躍以外の面においても、三瀬高校の特色、魅力を広げることが必要である。						・安心安全な環境づくりに向け、学校だけでなく保護者・地域からも要望することが許容される。 ・学校での事故のニュースなど見受けられる。今後も安全点検の定期的な実施と建物の修繕工事を進め、安全確保に努めていきたい。 ・生徒の主体的な学習の場を増やして、礼節を重んじた教育をしてもらいたい。 ・学校の雰囲気も非常に良いと思う。